

【事業実績】

①日本美術専門家会議

北米・欧州・日本の日本美術を専門とする学芸員が直面する問題について、情報交換及び討論を行った。今回は、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、ウェブ会議システムを使用したリモート会議とした。

日 時：令和3年2月5日（金）23：00～24：00

会 場：東京国立博物館 平成館小講堂（オンライン）

出席者：25名（北米9名、ヨーロッパ9名、日本7名）



②国際シンポジウム

「日本美術がつなぐ博物館コミュニティ：ウィズ／ポスト・コロナ時代の挑戦」と題して、世界的に新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、ミュージアムはいかなる未来像を描いて活動し、日本美術を研究し、成果を発信するのか、その意義について展望した。

日 時：令和3年1月30日（土）13：30～17：15

会 場：東京国立博物館 平成館大講堂（オンライン）

視聴者数：1,287名

概 要：

- ・ **基調講演**：樋田 豊次郎（東京都庭園美術館館長）「異文化を吸収する度胸」
- ・ **発表1**：シャオチン・ウー（シアトル美術館 日本・韓国美術担当学芸員）
「異文化における日本美術の発信－シアトル美術館アジア館の場合」
- ・ **トークセッション1**：シャオチン・ウー / 後藤 恒（福岡市美術館 主任学芸主事）
- ・ **発表2**：ウィブケ・シュラーペ（ハンブルク美術工芸博物館 東アジア課長）
「コロナ禍でのハンブルク美術工芸博物館における日本美術コレクションの活用」
- ・ **トークセッション2**：ウィブケ・シュラーペ / メアリー・レッドファーン
（チェスター・ビーティー 東アジア美術担当学芸員）
- ・ **発表3**：アロン・リオ（メトロポリタン美術館 日本美術担当学芸員）
「コロナ時代のメトロポリタン美術館におけるデジタル戦略」
- ・ **トークセッション3**：アロン・リオ / ローラ・アレン
（サンフランシスコ・アジア美術館 学芸部長、日本美術担当学芸員）
- ・ **発表4**：猪熊 兼樹（東京国立博物館 特別展室長）
「雪に耐えて梅花麗（うるわ）し コロナ禍における東京国立博物館の特別展」
- ・ **トークセッション4**：猪熊 兼樹、実方 葉子 泉屋博古館 学芸部長

そ の 他：オンライン開催後、2週間のアーカイブ配信を実施



③ワークショップ

(1) 文化財取り扱い動画

東京国立博物館研究員による、彫刻作品と能面の取り扱い方法について説明する動画を作成した。これまでの参加者による実践を盛り込んだワークショップから、動画を作成し記録としても残せる内容とした。

(2) エクスカーション動画

日本美術を熟知するためには、日本文化を理解すると共に、日本美術の背景を理解することが不可欠であるため、今回は、鎌倉を訪問し、禅文化、寺社や地元の文化財を紹介する動画を作成した。



○海外の日本美術専門家からの声

新型コロナウイルス感染症の拡大という世界的な問題に直面する中、他の博物館の事例や前向きなプロジェクトの成果を知ることができたことは非常に有益で、非常に刺激的だったという意見が多数あった。

また、リモート開催という形式に対し、参加者同士で自由な議論や情報交換を行うには制限があるという意見があった一方、このような状況の中でも交流の機会が設けられたことに対する感謝のコメントが多数寄せられた。

なお、シンポジウムのオンライン配信を行ったことで、通常では参加が難しい海外の専門家や一般の参加者も発表、討議の視聴が可能となり、アクセシビリティが向上したという評価もあった。

対面による直接的な交流が難しくなる中で、本事業の継続によって構築されたネットワークを通じて、北米・欧州・日本の日本美術専門家の交流が継続できたことは、非常に評価すべき点であり、本事業の意義が示されたと考えられる。